

(様式2) 【発表要旨】

＜発表者＞ 指導区名：大隅指導区 氏名：神志那 仁

1 発表テーマ

大隅地域における「森林認証による持続可能な木材利用」への取組

2 テーマの趣旨・目的 ＜取組課題選定の背景含む＞

管内のスギ・ヒノキ人工林の森林資源は、本格的な利用期を迎えている。その利用にあたっては、地球規模の環境問題の深刻化や SDGS 等への関心の高まりなどから、環境保全や持続可能性に配慮した森林の管理が望まれている。

また、「森林認証材」は環境や社会に配慮しながら、経済的にも持続可能な森林管理が行われていることを第三者機関が評価・認証したものであり、大阪・関西万博といった国際的なイベントの調達条件とされるなど、国際基準を満たした森林認証材に対する需要が高まってきている。

管内においては、FM（森林認証）認証は、鹿屋市森林認証協議会及び鹿児島大学演習林が取得しており、その認証材を消費者まで流すために必要な、流通・加工に対する COC 認証を取得しているのは、管内の木材加工を営む山佐木材（株）、素材生産を営む曾於地区森林組合の2事業体のみであった。

このことから、森林認証材の流通体制を確立し、地域の「持続可能な木材利用」を推進することを目的に、素材生産、木材流通及び木材加工を営む者の COC 認証取得促進に取り組んだ。

3 現状及びこれまでの取組の成果・課題

① 成果（目標数値等を定めた場合は、その成果を含む）

- 森林認証材の流通量を増大させるためには、素材生産業者、木材流通及び木材加工を営む者の COC 認証取得者が不可欠

⇒ 管内の素材生産業者、木材流通・加工業者を対象等した、COC 認証取得促進セミナーの開催及び、認証取得希望者への、個別訪問による取得指導を行った。

管内では新たに、素材生産業者等の3森林組合及び2事業体が、COC 認証を取得した

- 鹿屋市森林認証協議会員（県営林）の立木処分に際し、川中から川下への認証材で出荷できる体制はあったものの、認証材では出荷されず

⇒ 主に川上・川中で構成された FM 認証協議会内での情報しかないことや、川下が情報を適期に取得できないことが原因と判明

森林認証を取得した管内・外の川上から川下まで含めた団体による大隅地域「森林認証による持続可能な木材利用」懇談会を開催。サプライチェーン構築に向けた課題を提示し、意見交換を行った。

○ 森林認証制度に対する認知度が低い

⇒ 「木づかい推進月間」におけるかごしま材の展示 PR 活動や、「おおすみ木材まつり」等の各種イベントや講習会、講演会等を開催し、積極的に森林認証制度を PR した。

鹿屋市森林認証協議会と連携し、新たに COC 認証を取得した、木材加工事業者へ普及 PR グッズの作成を委託。
今後、各種イベントや商談にて活用できるよう整備を図る。

② 課題

- ・森林認証材の「サプライチェーン」の構築に向けた、さらなる関係者間の合意形成の場の創出
- ・さらなる FM 認証林の拡大に向けた、市町有林等への森林認証制度の普及
- ・「持続可能な森林経営・木材利用」の民有林への波及

4 今後取り組むべき内容

① 具体的手法又は検討方向

- 森林認証材普及促進に向けたロードマップ作成による各課題への対応
 - ・森林認証材の大口需要に対応するためのサプライチェーン構築を図ることを目的に、各課題解決にむけた洗い出しと検証を実施する
- 川上から川下における、水平・垂直連携体制の構築
 - ・上記課題の解決と、関係者間の情報共有体制の整備を目的とした組織化を図り、流通コストの効率化を目指す

② 理由

森林認証材の新たな需要に対応するためには、持続可能性に配慮した関係者間連携による原木の安定供給体制を構築する必要がある。伐採箇所の分散化を図るための認証林の拡大や、川上と川下の伐採情報のマッチング、採材等の技術研修を行い、流通コストの効率化を図りつつ原木の付加価値を高める技術の習得を、産学官連携により図る必要がある。

さらには、森林認証の基礎となる「持続可能な木材利用」を通して、その効果を民有林の再造林の推進の強化に繋げる必要がある。

③ 期待する成果（目標数値等を定めた場合は、その内容を含む）

- 大隅地域の林業・木材産業の管理・経営水準の向上とイメージアップ
- 森林認証という環境貢献に対する付加価値を加えた、森林・林業・木材産業の「稼ぐ力」の向上